

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成29事業年度の業務実績に関する評価結果

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成29事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第78条の2の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成29事業年度の業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を実施した。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものである。

今回の年度評価は、第二期中期目標期間の6年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価した。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用されることで、より一層、教育・研究・臨床それぞれの活動が充実するとともに、法人の業務運営状況に対する県民の理解が深まることを期待する。

平成30年8月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	2

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	2
(2) 研 究	3
(3) 附属病院	4
(4) 地域貢献	4
(5) 国際交流	5
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制 システムの構築等運営体制の改善	5
(2) 人材育成・人事の適正化等	5
(3) 事務等の効率化・合理化	6
3 財務内容の改善	
(1) 自己収入の増加	6
(2) 経費の抑制	6
(3) 資産の運用管理の改善	6
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	7
(2) 情報公開等の推進	7
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	7
(2) 安全管理	7
(3) 基本的人権の尊重	7

第1 全体評価

1 総評

平成29年度は、和歌山県立医科大学が公立大学法人となって以来12年目であり、また、第二期中期目標期間の最終年である。「地域に開かれた大学」及び「地域への貢献」を果たすべく、県が定めた中期目標の達成に向け、様々な取組を実施したと認められる。

平成29年度計画124項目の業務実績を確認したところ、12項目が「年度計画を上回って実施している。」、109項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、3項目については「年度計画を十分には実施していない。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に業務を遂行できたと評価する。

特に、以下の取組等について評価する。

【教育】

- 日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価基準に適合していると認定された。
- 看護師国家試験、保健師国家試験の合格率100%を達成した。

【研究】

- 治験新規契約件数、治験による収入が大幅に増加した。また、臨床研究センターを活用し、がんに関する研究をはじめ先進的研究において成果を出した。

【附属病院】

- 手術支援ロボットダヴィンチを2台とするなど、がん診療体制の整備・充実を図った。
- がん診療に関する診療実績指標が、IMRT（強度変調放射線治療）実績数を除いてすべて向上した。
- 厚生労働省が行う救命救急センター充実段階評価において、A評価を受けるなど三次救急医療機関として十分な機能を果たした。
- 附属病院本院において、返書率（紹介状に対する返信として照会元の医師に文書を送付した割合）がほぼ100%を維持した。また、逆紹介率が増加するなど地域医療機関等との連携強化が図られた。
- 紀北分院について、逆紹介率が向上するなど、地域密着型協力病院として地域の医療機関との連携を深めた。
- 感染予防対策研修会の参加者数が増加した。また、広域抗菌薬長期使用症例数が減少した。
- 大学図書館にある最新情報の文献を参照できるメディカル・オンラインの閲覧数が増加した。
- 医師臨床研修マッチングの成績について、全国上位を維持した。

一方、以下の点について一層の努力が求められる。

【研究】

- PubMed に収録された論文数については、正規教員によるものが前年度と比較し減少している。また、インパクト・ファクター 3 以上の英語原著論文も全体の 3 割を下回っている。増加に向けた対策を講じられたい。

2 特色ある取組等

【教育】

- 関西公立私立医科大学・医学部連合の取組として、卒業試験問題を共同で作成し、問題の標準化を図った。

【国際交流】

- 新たにインドネシア共和国ウダヤナ大学やポルトガル共和国リスボン大学医学部と交流協定の締結を行った。従来からの協定校との交流の更なる深化にも取り組まれたい。

第2 項目別評価

評 定 の 区 分	中期目標・中期計画の達成に向けて、 S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-----------------------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 4 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈医学部、保健看護学部〉

- 医学部と保健看護学部の合同講義として、患者及び患者家族の会から直接話を聞き、両学部の学生が話し合うケアマインド教育を 1 年次から実施するなど、低学年時から早期体験実習など様々な体験実習を通じて、ケアマインド、コミュニケーション能力を向上させる取組を実施していることについて評価する。
- 問題解決能力を有する人材を育成するため、PBL (Problem based learning : 問題解決型授業) を継続して実施していることについて評価する。

- 将来のチーム医療の素地をつくるため、医学部と保健看護学部の共通講義や両学部生のグループワークを通じ、立場の違いによる考え方の差異を実際に体験させる取組を実施していることについて評価する。

〈医学部〉

- 進級試験、卒業試験問題の精度管理を行うとともに、医師国家試験の合格率との関連を検証したことについて評価する。
- 各講座から推薦のあった学部生向けの電子版ブックを購入するなど、図書館における学習支援教材の充実を図ったことについて評価する。
- 1、2年生を対象にした担任制について、目が行き届くよう教員一人当たりの学生数を10名未満とするなど、学生への相談支援体制が充実していることについて評価する。

〈保健看護学部〉

- 教育課程に「教養と人間学の領域」を設け、人文学、社会科学、自然科学などの幅広い教養を身に付け、豊かな人間性及び優れたコミュニケーション能力を育成する取組は、医療人の育成にとって重要であり評価する。
- 教員と附属病院看護師の共同研究（5例）に継続して取り組むなど、保健看護学部と附属病院の連携強化が図られていることについて評価する。
- 救急医療及び災害医療における看護の役割を修得するための科目を設置するとともに、地域・へき地医療のあり方について考えるための特別実地研修を実施したことについて評価する。

(2) 研究

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載14事項中13事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- iPS細胞由来の樹状細胞を用いて消化器固形癌に対するワクチン効果を初めて確認したこと、日本で初めて実施する標準療法不能膵癌に対する樹状細胞ワクチンの医師主導治験において、治験製品の投与を開始したことについて評価する。

【指摘事項】

- 臨床研究センターを活用している講座が限られている。研究の裾野が大学全体に広がることを期待する。
- 保健看護学部の英語原著論文数は1件のみである。今後、英語教育の充実を図り、論文数の増加に向けた対策を医学部と同様に講じられたい。
- 特許収入がない。知的財産の創出・取得・管理・活用を図るためには一定の戦略が求められる。他大学の取組を参考にするなど、研究成果を効果的に活用するための取組を強化されたい。

(3) 附属病院

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載32事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈附属病院本院〉

- 新生児ドクターカーを365日24時間、自主運行するとともに、NICUに看護師長を配置し看護体制の強化を図るなど、県内唯一の総合周産期母子医療センターとしての役割を發揮していることについて評価する。
- 連携登録医が増加していることについて評価する。この制度が、連携登録医にとってメリットのある取組となるよう心掛け更なる増加に努められたい。
- 認知症に関する市民公開講座について、参加者の満足度も十分得られており、認知症の普及啓発が図られていることについて評価する。
- 特定機能病院として医療安全管理体制の強化を図ったことについて評価する。
- 研修医と同様に看護師についてもアメリカ心臓協会のガイドラインに準拠したBLS (Basic Life Support : 一次救命措置) 講習会を受講することとしたこと、また、事務職員に対してもBLS講習会を開催し、職員全員の意識向上に繋げていることについて評価する。
- 災害に対する研修や訓練を重ねるとともに、絶えずマニュアルを見直し、基幹災害医療センターとしての役割を果たしていることについて評価する。
- 遠隔医療支援システムを活用した遠隔外来の実施や講義の配信の取組について評価する。今後、更なる発展を期待したい。
- 地域の医療機関に従事する看護師に対する研修を効果的なものとするため導入したe-ラーニングの視聴割合が大幅に増加し、教育支援に繋がっていることについて評価する。
- 看護師の特定行為研修を行う指定研修機関として、4月から特定行為研修を開始したことについて評価する。

【指摘事項】

〈附属病院本院〉

- がん診療における機能分化及び地域連携を推進するための5大がん地域連携パスの運用実績が低調である。関連する全診療科の積極的な取組を期待したい。
- 院内感染対策に関する体制は整備されているが、感染症専門医を配置するなどの充実が求められる。かつ、県内の医療機関に対して、感染対策の指導的役割を果たせるような整備を期待する。
- 患者満足度調査の結果を踏まえ、外来患者の待ち時間を縮減する具体的な対策を講じられたい。

(4) 地域貢献

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 県民向けの最新の医療カンファレンスの参加人数が低調である。参加者が増えるよう、日時、場所、講演内容などを工夫されたい。

(5) 国際交流

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 海外の大学、研究施設への学生の派遣数が前年度に比べ増加していることについて評価する。将来、医師として、研究者としての留学に繋がることを期待する。

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制システムの構築等運営体制の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 薬学部運営に係る基本方針、組織、人事、カリキュラム、施設、設備などの重要事項について大学全体として議論・検討を進め、薬学部長予定者、主要教員予定者等を決定したことについて評価する。

薬学部設置は、法人にとって大規模な投資であり、長期にわたり多額の経費が必要となることが予想される。今後の薬剤師の需給状況など社会情勢を踏まえながら、指導的役割を果たす薬剤師、医学と連携した研究を行う薬剤師という目指すべき目標の実現を図るべく、県との連携を密にし、将来にわたる安定した学部運営に向けて今後、一層の努力を期待したい。

- 定期監査や臨時監査、無通告検査（前年度に比べ30件増加）を実施するとともに、公的研究費については、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき監査を実施したことについて評価する。

(2) 人材育成・人事の適正化等

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 保育園の増築、病児保育の定員増、延長保育の時間延長等の運用改善や仕事と子育ての両立が困難な教職員を対象とする学童保育の実施、男性職員の育児参加を促進させる取組など、子育てに係る支援を充実させ、働きやすい環境整備を行ったことについて評価する。また、

男性職員の育児参加計画書提出数が前年度に比べ増加していることについて評価する。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

3 財務内容の改善

(1) 自己収入の増加

【評定】 B (概ね順調に進んでいる。)

年度計画の記載7事項中6事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 病院経営においては、平成28年度の赤字の要因を分析し、平成29年度において改善を図ったことについて評価する。
- 県内外企業に対して共同研究、受託研究等に関する働きかけを行った結果、平成29年度における企業との受託研究は契約締結件数、収入金額ともに増加していることについて評価する。

【指摘事項】

- 附属病院の入院部門の査定率については、カンファレンスに出向き査定内容について説明し、今後の取組等について情報共有を行うなどにより減少したものの、依然高いレベルにある。今後、より一層の取組が求められる。

(2) 経費の抑制

【評定】 B (概ね順調に進んでいる。)

年度計画の記載4事項中3事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 診療材料費や委託費について、内容を精査し一層の縮減の努力をされることを求めたい。

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 情報公開等の推進

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 報道件数が前年度より増加したことについて評価する。今後、臨床研究センターにおける成果や知見など大学の取組を、より一層、県民やマスコミにPRするよう努められたい。

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 津波防潮ゲート等運用マニュアルを作成するとともに災害発生後48時間以内を中心とする急性期に活動する災害時派遣医療チーム(DMAT)について、医師1名、看護師1名を新たに養成するなど危機管理体制を整備したことについて評価する。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- ハラスメントをテーマとした研修を年8回行い、受講率もほぼ100%を維持していることについて評価する。引き続き、人権意識の醸成を目指した教育を推進されたい。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略） ◎印は委員長

氏 名	役 職 等
◎ 辻 省 次	国際医療福祉大学大学院・医学部教授 東京大学大学院医学系研究科分子神経学特任教授
川 渕 孝 一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野教授
坂 本 す が	東京医療保健大学副学長 公益社団法人日本看護協会前会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院名誉院長・参与 市立岸和田市民病院顧問
谷 口 友 志	公益財団法人白浜医療福祉財団白浜はまゆう病院院長
西 野 仁 雄	名古屋市立大学名誉教授 名古屋市立大学元学長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成30年7月10日開催
- ・第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成30年8月9日開催

○大学収容定員等（平成29年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	600	632
保健看護学部	320	324
医学研究科	196	123
修士課程	28	22
博士課程	168	101
保健看護学研究科	33	37
博士前期課程	24	25
博士後期課程	9	12
助産学専攻科	10	9

○教職員数（平成29年4月1日現在）

総 数（人）	1,737
教員	375
事務職員	139
技術職員	6
現業職員	3
医療技術部門職員	296
看護部門職員	911
研究補助職員	7

（出典）平成29年度和歌山県立医科大学概要